

豊田工機(株)

豊田工機コンピュータ リンク(SIO)ドライバ

- [1 システム構成](#)
- [2 結線図](#)
- [3 使用可能デバイスアドレス](#)
- [4 連続アドレスの最大データ数](#)
- [5 環境設定例](#)
- [6 接続機器設定](#)
- [7 ドライバ設定](#)
- [8 タイプ設定](#)
- [9 デバイスアドレス設定](#)

- ・ このマニュアルでは、ターゲット機と各社接続機器との接続について説明しています。Pro-Designerの操作方法の詳細についてはオンラインヘルプを参照してください。
- ・ 対応しているターゲット機の種類はPro-Designerのバージョンによって異なります。対応機種の詳細についてはPro-Designerのオンラインヘルプを参照してください。

1 システム構成

豊田工機(株)製PLCとターゲット機を接続する場合のシステム構成を示します。結線図は「2 [結線図](#)」を参照してください。

シリーズ	CPU	リンクI/F	通信方式	結線図
TOYOPUC PC3J シリーズ	PC3J PC3JD	CPUモジュール上の コンピュータリンクポート	RS-422(4線式)	結線図1
			RS-422(4線式) (1:n) ¹	結線図2
			RS-422(2線式)	結線図3
			RS-422(2線式) (1:n) ¹	結線図4
		PC/CMP-LINK (THU-2755)	RS-422(2線式)	結線図5
			RS-422(2線式) (1:n) ¹	結線図6

1 マルチドロップ接続を使用してターゲット機1台に対し最大32台までPLCを接続できます。

2 結線図

以下に示す結線図と豊田工機(株)の推奨する結線図が異なる場合がありますが、本書に示す結線図でも動作上問題はありません。

- ・ PLC本体のFG端子はD種接地を行ってください。詳細はPLCのマニュアルを参照してください。
- ・ 通信ケーブルを結線する場合は、必ずSGを接続してください。

結線図1 RS-422(4線式)

ターゲット機にあわせて下表に示すケーブルまたはアダプタを使用するか、ケーブルを自作してターゲット機を接続します。

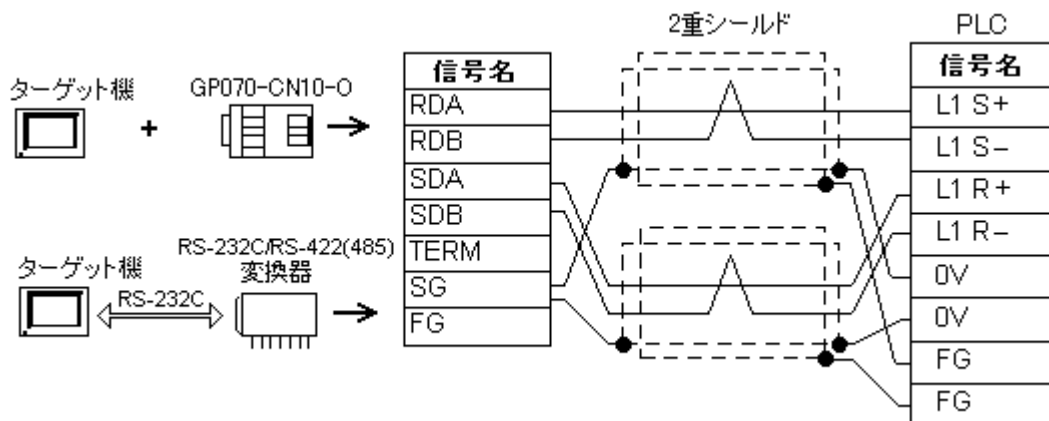
ターゲット機	使用可能ケーブル/アダプタ	備考
GP ¹ , PS-P ¹	a (株) デジタル製 RS-422コネクタ端子台変換アダプタGP070-CN10-0	ケーブル長は、500m以内にしてください。
	b (株) デジタル製 RS-422ケーブル GP230-IS12-0	
	c 自作ケーブル	
PC/AT(PL), PS-G	a RS-232C/RS-422(485)変換器	

1 COM1のみ接続できます。

MEMO

- ・ 伝送ケーブルは耐ノイズ性向上のために、ツイストペア一括二重シールドケーブルを使用し、シールド線を必ず接地してください。
- ・ 設置環境により通信に問題が生じる場合は、終端抵抗をご使用ください。

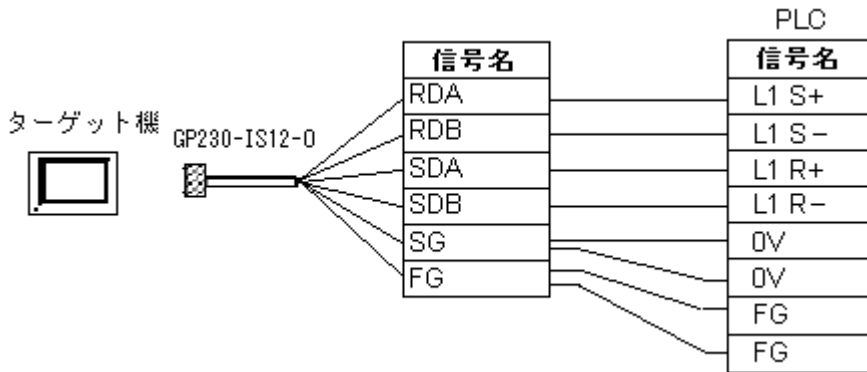
- a. (株) デジタル製RS-422コネクタ端子台変換アダプタ (GP070-CN10-0)またはRS-232C/RS-422(485)変換器を使用する場合



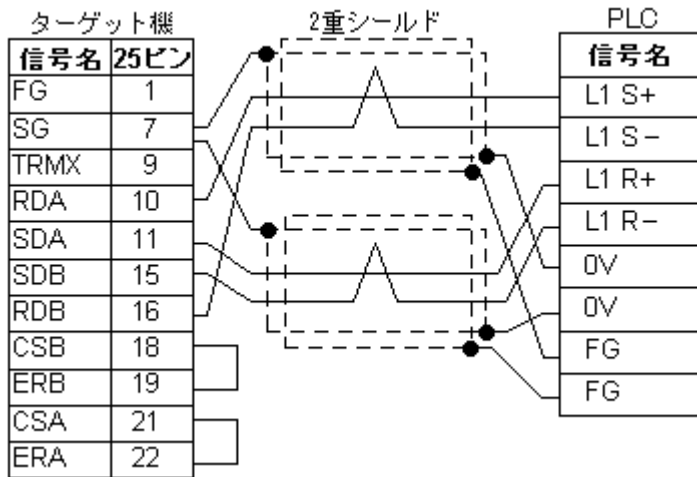
MEMO

- ・ RS-232C/RS-422(485)変換器はRS-485側が端子台になっており、電源は通信ライン以外の外部から得る形状のものを使用してください。
- ・ RS-422(485)端子台の終端抵抗は変換器の仕様を確認のうえ取り付けてください。
- ・ RS-232C/RS-422(485)変換器とターゲット機間のRS-232C結線は、変換器の仕様により異なります。変換器の仕様を確認してください。

b. (株) デジタル製RS-422ケーブル (GP230-IS12-0)を使用する場合



c. ケーブルを自作する場合



結線図2 RS-422(4線式)(1:n)

ターゲット機にあわせて下表に示すケーブルまたはアダプタを使用するか、ケーブルを自作してターゲット機を接続します。

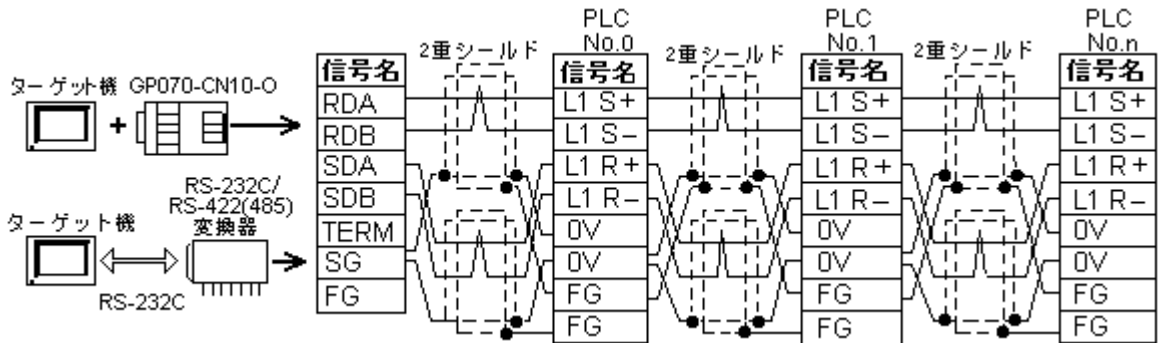
ターゲット機	使用可能ケーブル/アダプタ	備考
GP ¹ , PS-P ¹	a (株) デジタル製 RS-422コネクタ端子台変換アダプタGP070-CN10-0	ケーブル長は、 500m以内にして ください。
	b (株) デジタル製 RS-422ケーブル GP230-IS12-0	
	c 自作ケーブル	
PC/AT(PL), PS-G	a RS-232C/RS-422(485)変換器	

1 COM1のみ接続できます。

MEMO

- ・ 伝送ケーブルは耐ノイズ性向上のために、ツイストペア括二重シールドケーブルを使用し、シールド線を必ず接地してください。
- ・ 設置環境により通信に問題が生じる場合は、終端抵抗をご使用ください。

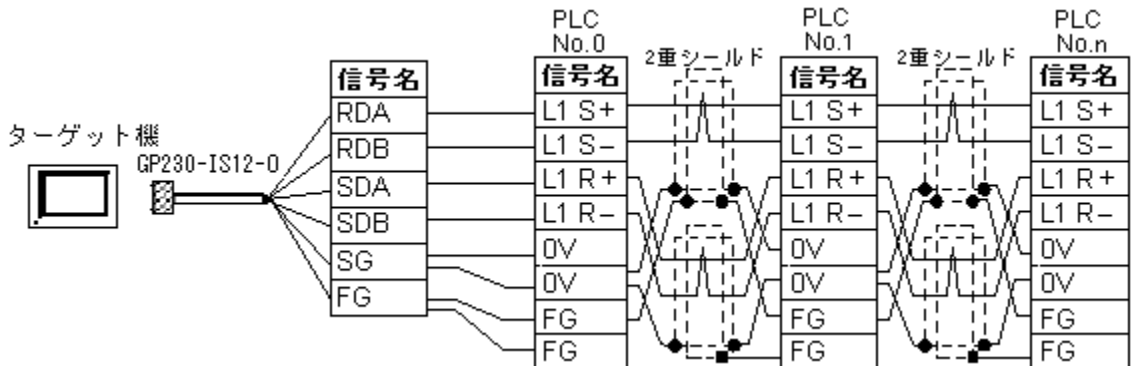
- a. (株) デジタル製RS-422コネクタ端子台変換アダプタ (GP070-CN10-0)またはRS-232C/RS-422 (485)変換器を使用する場合



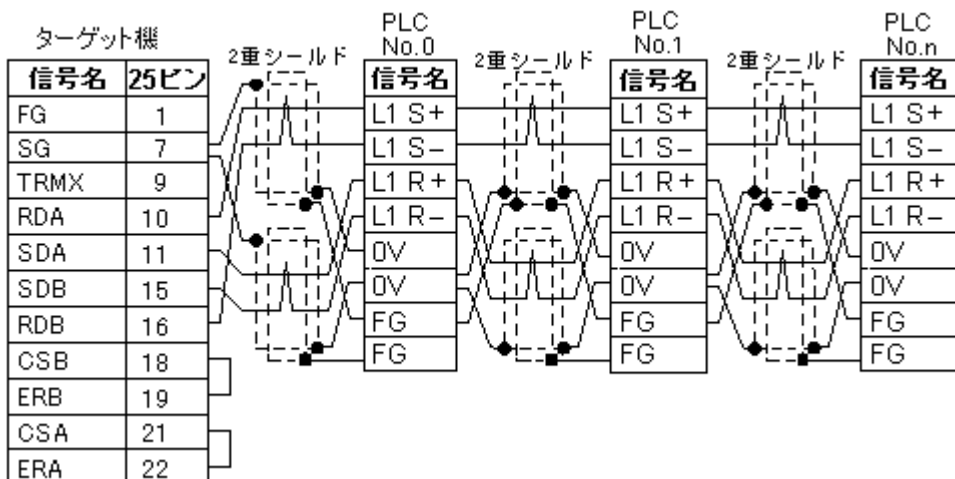
MEMO

- RS-232C/RS-422(485)変換器はRS-485側が端子台になっており、電源は通信ライン以外の外部から得る形状のものを使用してください。
- RS-422(485)端子台の終端抵抗は変換器の仕様を確認のうえ取り付けてください。
- RS-232C/RS-422(485)変換器とターゲット機間のRS-232C結線は、変換器の仕様により異なります。変換器の仕様を確認してください。

- b. (株) デジタル製RS-422ケーブル (GP230-IS12-0)を使用する場合



- c. ケーブルを自作する場合



結線図3 RS-422(2線式)

ターゲット機にあわせて下表に示すケーブルまたはアダプタを使用するか、ケーブルを自作してターゲット機を接続します。

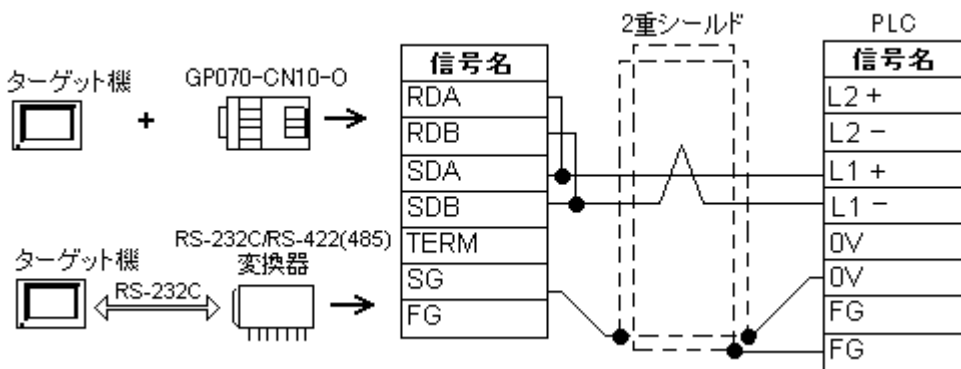
ターゲット機	使用可能ケーブル/アダプタ	備考
GP ¹ , PS-P ¹	a (株) デジタル製 RS-422コネクタ端子台変換アダプタGP070-CN10-0	ケーブル長は、500m以内にしてください。
	b (株) デジタル製 RS-422ケーブル GP230-IS12-0	
	c 自作ケーブル	
PC/AT(PL), PS-G	a RS-232C/RS-422(485)変換器	

1 COM1のみ接続できます。

MEMO

- ・ 伝送ケーブルは耐ノイズ性向上のために、ツイストペア一括二重シールドケーブルを使用し、シールド線を必ず接地してください。
- ・ 設置環境により通信に問題が生じる場合は、終端抵抗をご使用ください。

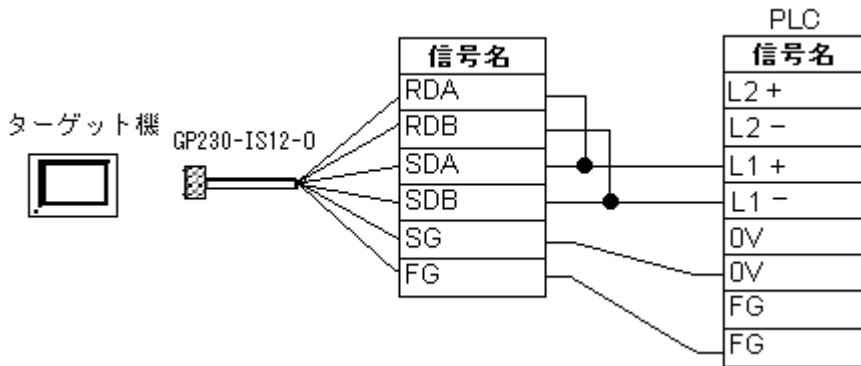
a. (株) デジタル製RS-422コネクタ端子台変換アダプタ (GP070-CN10-0)またはRS-232C/RS-422(485)変換器を使用する場合



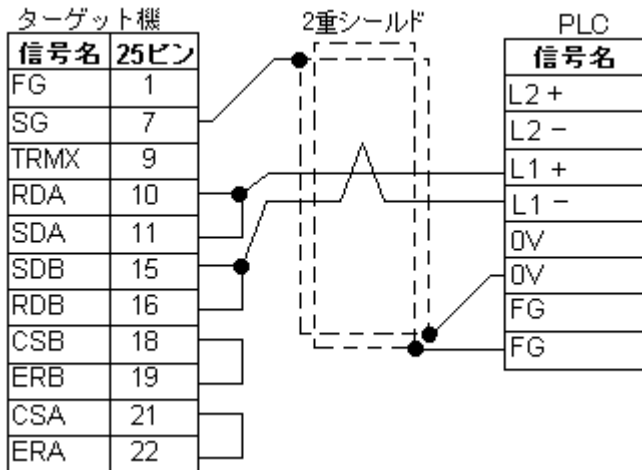
MEMO

- ・ RS-232C/RS-422(485)変換器はRS-485側が端子台になっており、電源は通信ライン以外の外部から得る形状のものを使用してください。
- ・ RS-422(485)端子台の終端抵抗は変換器の仕様を確認のうえ取り付けてください。
- ・ RS-232C/RS-422(485)変換器とターゲット機間のRS-232C結線は、変換器の仕様により異なります。変換器の仕様を確認してください。

b. (株) デジタル製RS-422ケーブル (GP230-IS12-0)を使用する場合



c. ケーブルを自作する場合



結線図4 RS-422(2線式)(1:n)

ターゲット機にあわせて下表に示すケーブルまたはアダプタを使用するか、またはケーブルを自作してターゲット機を接続します。

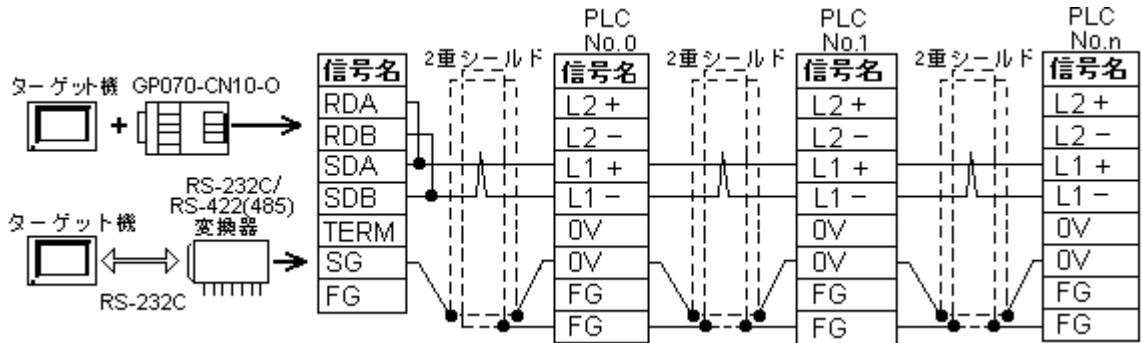
ターゲット機	使用可能ケーブル/アダプタ	備考
GP ¹ , PS-P ¹	a: (株) デジタル製 RS-422コネクタ端子台変換アダプタGP070-CN10-0	ケーブル長は、500m以内にしてください。
	b: (株) デジタル製 RS-422ケーブル GP230-IS12-0	
	c: 自作ケーブル	
PC/AT(PL), PS-G	a: RS-232C/RS-422(485)変換器	

1 COM1のみ接続できます。

MEMO

- ・ 伝送ケーブルは耐ノイズ性向上のために、ツイストペアー括二重シールドケーブルを使用し、シールド線を必ず接地してください。
- ・ 設置環境により通信に問題が生じる場合は、終端抵抗をご使用ください。

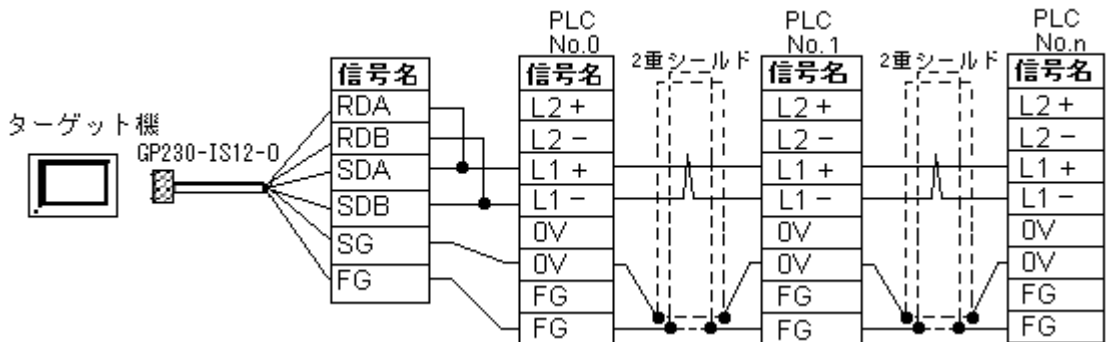
a. (株) デジタル製RS-422コネクタ端子台変換アダプタ (GP070-CN10-0)またはRS-232C/RS-422(485)変換器を使用する場合



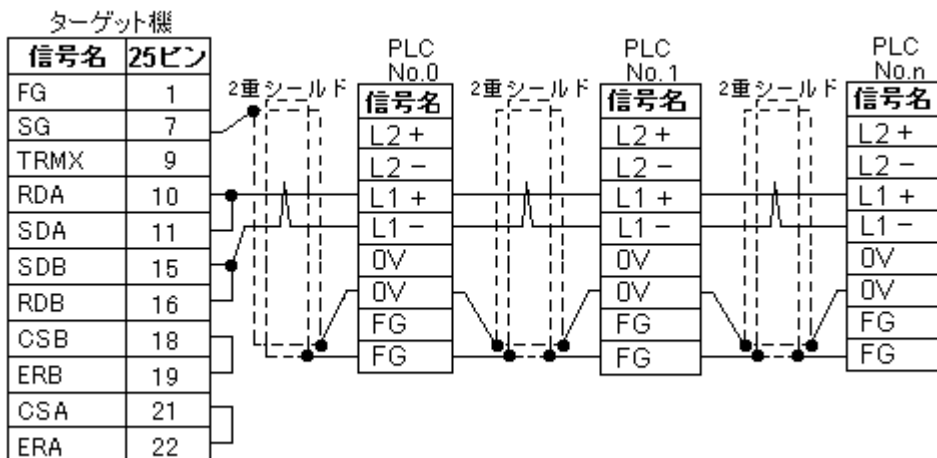
MEMO

- ・ RS-232C/RS-422(485)変換器はRS-485側が端子台になっており、電源は通信ライン以外の外部から得る形状のものを使用してください。
- ・ RS-422(485)端子台の終端抵抗は変換器の仕様を確認のうえ取り付けてください。
- ・ RS-232C/RS-422(485)変換器とターゲット機間のRS-232C結線は、変換器の仕様により異なります。変換器の仕様を確認してください。

b. (株) デジタル製RS-422ケーブル (GP230-IS12-0)を使用する場合



c. ケーブルを自作する場合



結線図5 RS-422(2線式)

ターゲット機にあわせて下表に示すケーブルまたはアダプタを使用するか、ケーブルを自作してターゲット機を接続します。

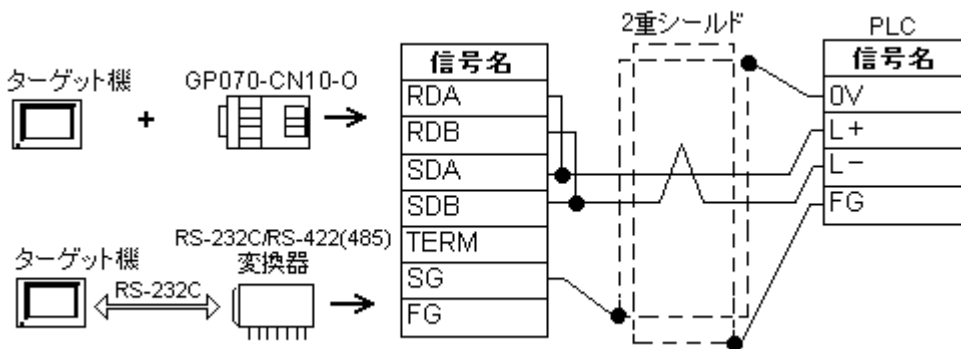
ターゲット機	使用可能ケーブル/アダプタ	備考
GP ¹ , PS-P ¹	a (株) デジタル製 RS-422コネクタ端子台変換アダプタGP070-CN10-0	ケーブル長は、 500m以内にして ください。
	b (株) デジタル製 RS-422ケーブル GP230-IS12-0	
	c 自作ケーブル	
PC/AT(PL), PS-G	a RS-232C/RS-422(485)変換器	

1 COM1のみ接続できます。

MEMO

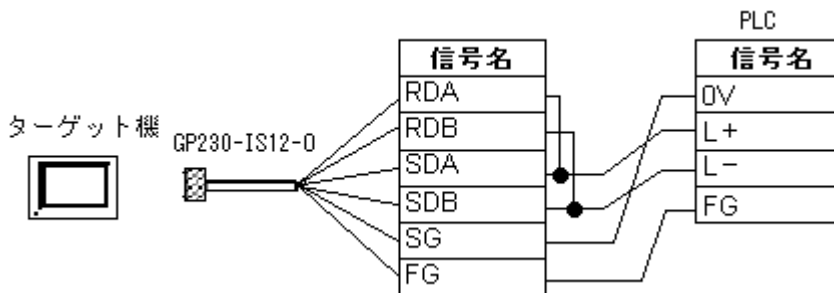
- ・ 伝送ケーブルは耐ノイズ性向上のために、ツイストペア一括二重シールドケーブルを使用し、シールド線を必ず接地してください。
- ・ 設置環境により通信に問題が生じる場合は、終端抵抗をご使用ください。

- a. (株) デジタル製RS-422コネクタ端子台変換アダプタ (GP070-CN10-0) またはRS-232C/RS-422(485)変換器を使用する場合

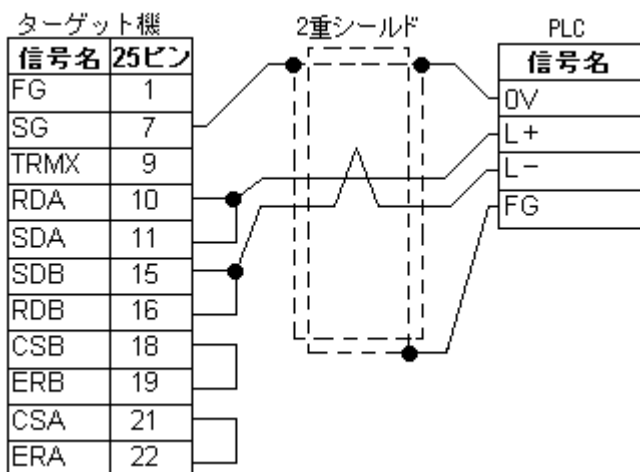
**MEMO**

- ・ RS-232C/RS-422(485)変換器はRS-485側が端子台になっており、電源は通信ライン以外の外部から得る形状のものを使用してください。
- ・ RS-422(485)端子台の終端抵抗は変換器の仕様を確認のうえ取り付けてください。
- ・ RS-232C/RS-422(485)変換器とターゲット機間のRS-232C結線は、変換器の仕様により異なります。変換器の仕様を確認してください。

b. (株) デジタル製RS-422ケーブル (GP230-IS12-0)を使用する場合



c. ケーブルを自作する場合



結線図6 RS-422(2線式)

ターゲット機にあわせて下表に示すケーブルまたはアダプタを使用するか、またはケーブルを自作してターゲット機を接続します。

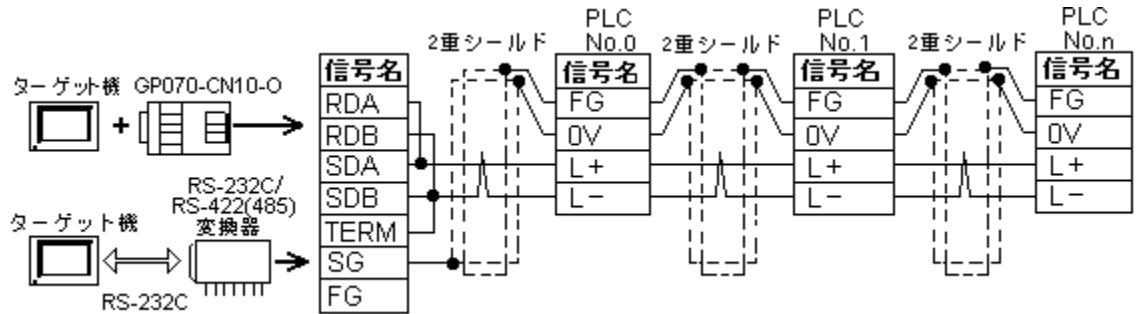
ターゲット機	使用可能ケーブル/アダプタ	備考
GP ¹ , PS-P ¹	a (株) デジタル製 RS-422コネクタ端子台変換アダプタGP070-CN10-0	ケーブル長は、500m以内にしてください。
	b (株) デジタル製 RS-422ケーブル GP230-IS12-0	
	c 自作ケーブル	
PC/AT(PL), PS-G	a RS-232C/RS-422(485)変換器	

1 COM1のみ接続できます。

MEMO

- ・伝送ケーブルは耐ノイズ性向上のために、ツイストペア一括二重シールドケーブルを使用し、シールド線を必ず接地してください。
- ・設置環境により通信に問題が生じる場合は、終端抵抗をご使用ください。

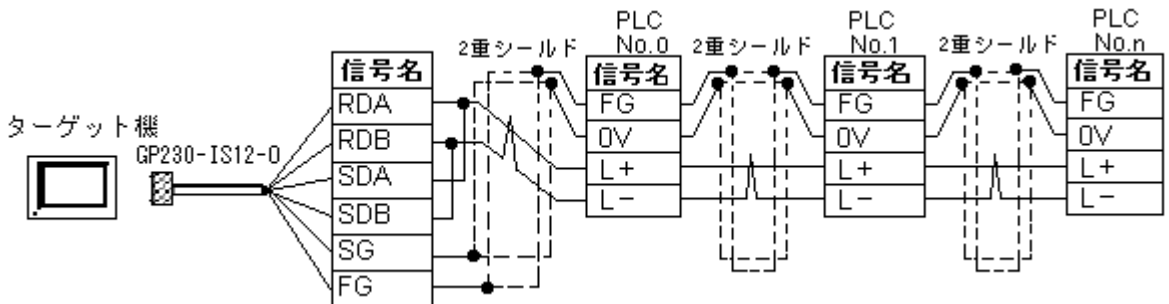
a. (株) デジタル製RS-422コネクタ端子台変換アダプタ (GP070-CN10-0)またはRS-232C/RS-422(485)変換器を使用する場合



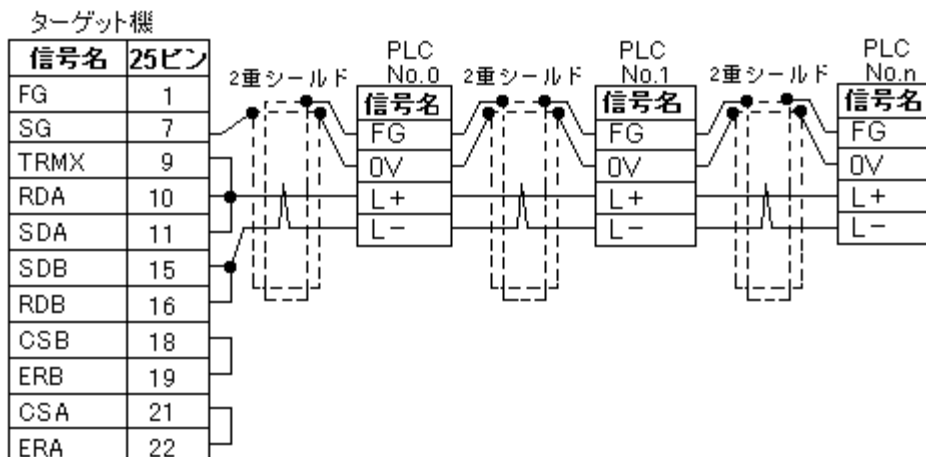
MEMO

- ・ RS-232C/RS-422(485)変換器はRS-485側が端子台になっており、電源は通信ライン以外の外部から得る形状のものを使用してください。
- ・ RS-422(485)端子台の終端抵抗は変換器の仕様を確認のうえ取り付けてください。
- ・ RS-232C/RS-422(485)変換器とターゲット機間のRS-232C結線は、変換器の仕様により異なります。変換器の仕様を確認してください。

b. (株) デジタル製RS-422ケーブル (GP230-IS12-0)を使用する場合



c. ケーブルを自作する場合



3 使用可能デバイスアドレス

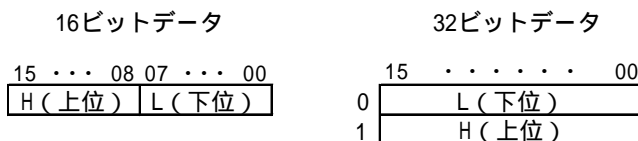
Pro-Designerでの設定時に入力可能なデバイスアドレスの範囲を示します。ただし、実際にサポートされているデバイスアドレスの範囲はPLCの機種によって異なりますので、お使いのPLCのマニュアルで確認してください。

デバイス	ビットアドレス ^{1 2}	ワードアドレス ³	16 bit	32 bit
入力	1X000-1XFFFF	1X000W-1XFFFFW	L/H ⁴	L/H ⁴
	2X0000-2XFFFF	2X000W-2XFFFFW		
	3X0000-3XFFFF	3X000W-3XFFFFW		
出力	1Y0000-1YFFFF	1Y000W-1YFFFFW		
	2Y0000-2YFFFF	2Y000W-2YFFFFW		
	3Y0000-3YFFFF	3Y000W-3YFFFFW		
内部リレー	1M0000-1MFFFF	1M000W-1MFFFFW		
	2M0000-2MFFFF	2M000W-2MFFFFW		
	3M0000-3MFFFF	3M000W-3MFFFFW		
キーブリレー	1K0000-1KFFFF	1K000W-1KFFFFW		
	2K0000-2KFFFF	2K000W-2KFFFFW		
	3K0000-3KFFFF	3K000W-3KFFFFW		
リンクリレー	1L0000-1LFFFF	1L000W-1LFFFFW		
	2L0000-2LFFFF	2L000W-2LFFFFW		
	3L0000-3LFFFF	3L000W-3LFFFFW		
特殊リレー	1V0000-1VFFFF	1V000W-1VFFFFW		
	2V0000-2VFFFF	2V000W-2VFFFFW		
	3V0000-3VFFFF	3V000W-3VFFFFW		
エッジ検出	1P0000-1PFFFF			
	2P0000-2PFFFF			
	3P0000-3PFFFF			
タイマ	1T0000-1TFFFF	1T000W-1TFFFFW		
	2T0000-2TFFFF	2T000W-2TFFFFW		
	3T0000-3TFFFF	3T000W-3TFFFFW		
カウンタ	1C0000-1CFFFF	1C000W-1CFFFFW		
	2C0000-2CFFFF	2C000W-2CFFFFW		
	3C0000-3CFFFF	3C000W-3CFFFFW		
データレジスタ	1D0000:0-1DFFFF:F	1D0000-1DFFFF		
	2D0000:0-2DFFFF:F	2D0000-2DFFFF		
	3D0000:0-3DFFFF:F	3D0000-3DFFFF		
リンクレジスタ	1R0000:0-1RFFFF:F	1R0000-1RFFFF		
	2R0000:0-2RFFFF:F	2R0000-2RFFFF		
	3R0000:0-3RFFFF:F	3R0000-3RFFFF		
特殊レジスタ	1S0000:0-1SFFFF:F	1S0000-1SFFFF		
	2S0000:0-2SFFFF:F	2S0000-2SFFFF		
	3S0000:0-3SFFFF:F	3S0000-3SFFFF		

次のページに続く。

デバイス	ビットアドレス ^{1 2}	ワードアドレス ³	16 bit	32 bit
現在値レジスタ	1N0000:0-1NFFFF:F	1N0000-1NFFFF	L/H ⁴	L/H ⁴
	2N0000:0-2NFFFF:F	2N0000-2NFFFF		
	3N0000:0-3NFFFF:F	3N0000-3NFFFF		
ファイルレジスタ	B0000:0-BFFFF:F	B0000-BFFFF		
拡張入力	EX0000-EXFFFF	EX000W-EXFFFFW		
拡張出力	EY0000-EYFFFF	EY000W-EYFFFFW		
拡張内部リレー	EM0000-EMFFFF	EM000W-EMFFFFW		
拡張キーブリレー	EK0000-EKFFFF	EK000W-EKFFFFW		
拡張リンクリレー	EL0000-ELFFFF	EL000W-ELFFFFW		
拡張特殊リレー	EV0000-EVFFFF	EV000W-EVFFFFW		
拡張エッジリレー	EP0000-EPFFFF	-		
拡張タイマ	ET0000-ETFFFF	ET000W-ETFFFFW		
拡張カウンタ	EC0000-ECFFFF	EC000W-ECFFFFW		
拡張特殊レジスタ	ES0000:0-ESFFFF:F	ES0000-ESFFFF		
拡張現在値レジスタ	EN0000:0-ENFFFF:F	EN0000-ENFFFF		
拡張設定値レジスタ	HO000:0-HFFFF:F	HO000-HFFFF		
拡張データレジスタ	UO000:0-UFFFF:F	UO000-UFFFF		

- 1 ビット書き込みを行うと、いったんターゲット機がPLCの該当するワードアドレスを読み込み、読み込んだワードアドレスにビットを立ててPLCに戻します。ターゲット機がPLCのデータを読み込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書き込み処理を行うと、正しいデータが書き込めない場合があるのでご注意ください。
- 2 ディスクリート型、整数型、実数型、および文字列型のデータにビットデバイスを使用することができます。ビットデバイスをワードアドレスとして使用するには、ビットアドレスの後に「W」を付加します。
- 3 ディスクリート型、整数型、実数型、および文字列型のデータにワードデバイスを使用することができます。ワードデバイスをビットアドレスとして使用するには、ワードの最後にコロンを付加してビットを追加します。
- 4 16ビットデータおよび32ビットデータ格納時のデータの上下関係は以下のとおりです。



4 連続アドレスの最大データ数

連続アドレスの読み出し時の最大データ数およびギャップスパン（連続デバイスアドレスとして使用されるPLCデバイスアドレス間の最大ギャップサイズ）を示します。ブロック転送を利用される場合に参照してください。

MEMO

- ・ データ通信を高速で行うには、パネル単位でデバイスアドレスが連続になるように変数のレイアウト設計を行ってください。
- ・ 以下の方法でデバイスを指定すると、デバイスの読み出しの回数が増えるため、データ通信速度が低下します。
 - ・ 連続アドレス最大データ数の範囲を超えている場合
 - ・ アドレスを分割して指定している場合
 - ・ デバイスの種類が異なる場合

デバイス	連続アドレス最大データ数	ギャップスパン
入力リレー (X)	128 ビット	12 ビット
出力リレー (Y)		
内部リレー (M)		
保持リレー (K)		
リンクリレー (L)		
特殊リレー (V)		
エッジ検出 (P)		
タイマ (T)		
カウンタ (C)		
データレジスタ (D)		
リンクレジスタ (R)		
特殊レジスタ (S)		
現在値レジスタ (N)		
ファイルレジスタ (B)		
拡張入力 (EX)		
拡張出力 (EY)		
拡張内部リレー (EM)		
拡張キーブリレー (EK)		
拡張リンクリレー (EL)		
拡張特殊リレー (EV)		
拡張エッジリレー (EP)		
拡張タイマ (ET)		
拡張カウンタ (EC)		
拡張特殊レジスタ (ES)		
拡張現在値レジスタ (EN)		
拡張設定値レジスタ (H)		
拡張データレジスタ (U)		

5 環境設定例

(株)デジタルが推奨するPLC側の通信設定と、それに対応するターゲット機側の通信設定を示します。参照 「7 [ドライバ設定](#)」、「8 [タイプ設定](#)」

コンピュータリンクポートの場合 (1:1/1:n接続)

		ターゲット機の設定		PLCの設定	
		GP, PS-P	PC/AT(PL), PS-G		
ドライバ設定	通信方式	RS-422 (2線式) / RS-422 (4線式)	RS-232C ¹	RS-422通信ポート	2線式/4線式
	制御方式	None	DTR(ER)/CTS		
	通信速度 ²	19200bps		ボーレート	19200bps
	通信リトライ	2			
	パリティビット	偶数		パリティビット	偶数
	ストップビット	1ビット		ストップビット	1ビット
	データ長	8ビット		データ長	8ビット
	受信タイムアウト	10sec			
	送信ウェイト	0msec			
タイプ設定	号機No.	0		STATION No. ³	0

- 1 ターゲット機がPC/AT(PL)またはPS-Gの場合、RS-422接続でもRS-232C/RS-422(485)変換器を使用してRS-232C通信を行います。したがって、通信方式は「RS-232C」を選択します。
- 2 CPUユニット上のリンクI/Fでは、最高57600bpsまで使用可能です。115.2kbpsはサポートしていません。
- 3 1:n 接続の場合、すべてのPLCのSTATION No.が異なるように設定してください。最大32台のPLCが接続できます。

PC/CMP-LINK(THU-2755)の場合 (1:1/1:n接続)

		ターゲット機の設定		PLCの設定	
		GP, PS-P	PC/AT(PL), PS-G		
ドライバ設定	通信方式	RS-422 (2線式)	RS-232C ¹	RS-422通信ポート ²	2線式
	制御方式	None	DTR(ER)/CTS		
	通信速度 ³	19200bps		ボーレート ³	19200bps
	通信リトライ	2			
	パリティビット	偶数		パリティビット	偶数
	ストップビット	1ビット		ストップビット	1ビット
	データ長	8ビット		データ長	8ビット
	受信タイムアウト	10sec			
	送信ウェイト	0msec			
					内部スイッチ
タイプ設定	号機No.	0		STATION No. ⁴	0

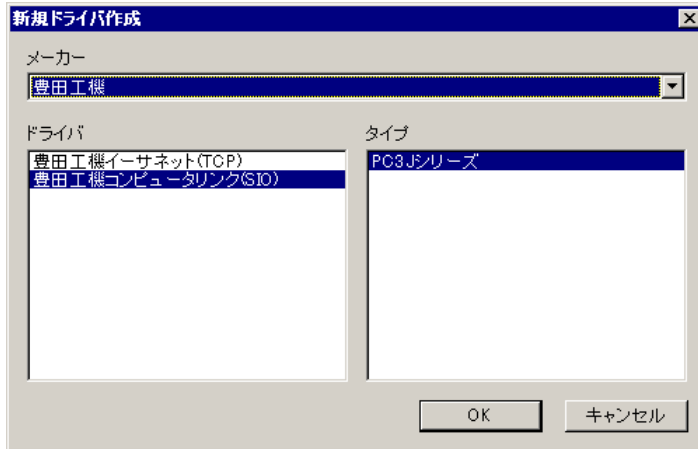
- 1 ターゲット機がPC/AT(PL)またはPS-Gの場合、RS-422接続でもRS-232C/RS-422(485)変換器を使用してRS-232C通信を行います。したがって、通信方式は「RS-232C」を選択します。
- 2 PC/CMP-LINK(THU-2755)は、2線式のみサポートしています。PC3Jコマンドを使用するとき、リンクユニットは、バージョン5.0以上を使用してください。
- 3 CPUユニット上のリンクI/Fでは、最高57600bpsまで使用可能です。115.2kbpsはサポートしていません。
- 4 1:n接続の場合、すべてのPLCのSTATION No.が異なるように設定してください。最大32台のPLCが接続できます。

6 接続機器設定

ターゲット機とPLC間の通信に使用するドライバとタイプはPLCの種類によって異なります。
システム構成にあわせてドライバとタイプを選択します。

MEMO

[新規ドライバ作成] ダイアログボックスの表示方法についてはオンラインヘルプを参照してください。



7 ドライバ設定

[ドライバ設定]ダイアログボックスで、ターゲット機とPLC間の通信方法の詳細を設定します。各プロパティの設定はPLC側の設定と一致していなければなりません。参照 「5 [環境設定例](#)」

MEMO

「ドライバ設定」ダイアログボックスの表示方法についてはオンラインヘルプを参照してください。

メーカー

PLCメーカーの名前が表示されます。このプロパティは読み取り専用です。

ドライバ

ターゲット機とPLCとの接続に使われるシリアル通信の種類が表示されます。このプロパティは読み取り専用です。

COMポート

PLCと接続させるターゲット機側のCOMポートに「COM1」～「COM4」のいずれかを選択します。

MEMO

ターゲット機がPS-Gの場合は「COM1」を選択してください。「COM2」では接続できません。

通信方式

「RS-232C」「RS-422 (2線式)」「RS-422 (4線式)」のいずれかを選択します。

接続方法については「2 [結線図](#)」を参照してください。

制御方式

送受信データのオーバーフローを防ぐための通信制御方式を選択します。

通信速度

ターゲット機とPLC間でデータをやり取りする通信速度（1秒間にやり取りされるデータのビット数（bps））を選択します。

通信リトライ

PLC通信エラーが発生した際に、ターゲット機がコマンドを再送信する回数を「0から255の整数」で入力します。

パリティビット

パリティチェックの有無、方法に「無し」「奇数」「偶数」のいずれかを選択します。

ストップビット

ストップビットの長さに「1」「1.5」「2」のいずれかを選択します。

データ長

データをやり取りする場合のデータ長（ビット構成）に「7」「8」のいずれかを選択します。

受信タイムアウト

PLCとの通信時に、ターゲット機が受信タイムアウトエラーになるまでの秒数を「1から127までの整数」で入力します。

送信ウェイト

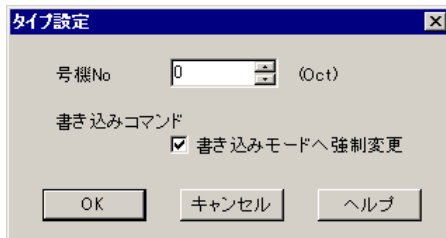
ターゲット機がパケットを受信してから、応答するまでの待機時間（ms）を設定します。

8 タイプ設定

[タイプ設定] ダイアログボックスで、ターゲット機とPLC間の通信方法に合わせてタイプの詳細を設定します。参照 「5 [環境設定例](#)」

MEMO

[タイプ設定] ダイアログボックスの表示方法についてはオンラインヘルプを参照してください。



機種 No.

機種No.を「0から37の8進数」で入力します。1:n接続でターゲット機1台に接続できるPLCは最大32台です。

書き込みコマンド：書き込みモードへ強制変更

PLC側の書き込みモードがOFFの場合、PLCはPro-Designer Runtimeアプリケーションからの書き込み要求を受け付けません。

[書き込みモードへ強制変更] をONにすると、Pro-Designer Runtimeからの書き込み要求があった場合、PLCを書き込みモードへと変更します。

9 デバイスアドレス設定

[デバイスアドレス設定] ダイアログボックスで、外部変数にPLCのデバイスアドレスを割り当てます。参照 「3 [使用可能デバイスアドレス](#)」

MEMO

[デバイスアドレス設定] ダイアログボックスの表示方法についてはオンラインヘルプを参照してください。



デバイス

PLCのデバイスをリストから選択します。

アドレス

キーボードを使ってアドレスを入力します。ビットアドレスがワードアドレスかによって、適切なフォーマットでの入力が可能になります。